

自然観察NOW

No.12

野幌森林公園自然情報
発行：2016年6月5日
北海道ボランティア・レンジャー協議会

命をつなぐ

ホウチャクソウの話



ホウチャクソウ

<疑似一年草です>

茎を伸ばし、葉を茂らせ、花を咲かせ、実を稔らせるのに、根に蓄えた養分を使い果たして枯れてしまいます。枯れる前に、ラメット（栄養繁殖体）を作り次の世代に命を引き継ぎます。多年草とばかり思っていました、疑似一年草と言います。

<春植物より遅れる林床植物の代表>

5月22日、三角山でホウチャクソウを見ました。沢山の草に埋もれるように咲き始めていました。今頃は花の最盛期が過ぎた頃でしょう。

花粉の運び手は昆虫頼り。昆虫も花を見つけにくいのか、結実の度合いは良好でないと言います。

「上層の落葉樹が完全に展葉し、林床に暗い陰を投げかける頃。ホウチャクソウの葉もしっかりと開ききる。」（「植物生活史図鑑」より引用）春植物は林床に降り注ぐ陽光を利用しますが、ホウチャクソウは違うタイプのようなのです。光も多様、利用するタイプも多様。奥の深い話です。

<種子の稔り>

秋には黒い漿果（ベリー・berry）をつけます。種子は意外と少なく、1個体あたりわずか4.7～5.3個。黒ですから、小鳥へのアピール色です。しかし、沢山の植物に埋まっていますから、小鳥による種子散布は、効果的でないようです。

<ラメットによる繁殖が中心>

ホウチャクソウの繁殖はラメットによるものが多い。観察会でも、ホウチャクソウは群落を作って生えています。これは、ラメットによって仲間を増やしたからです。ホウチャクソウのラン

<名前の起こり>

堂塔の軒の四隅などにつるす大型の風鈴を風鐸、宝鐸ふうちやく ほうちやくと言います。

ホウチャクソウの花の咲く様子を宝鐸に見立てて、ホウチャクソウと名付けたのが起こりです。



宝鐸



ナーは長いものになると、1メートルを超えるものがあります。

<ラメット（栄養繁殖体）>

花盛り状態の我が家のホウチャクソウを掘り起こしてみました。4本のランナーが見られます。この先にラメットが形成されます。ジャガイモと同じです。親芋が栄養を使い果たし、新ジャガが次への命の担い手として成長します。

天気の話

<低気圧に向かって強い風が吹き込んだ日>

5月15日夜から16日の朝にかけて強い風が吹き荒れました。ゴーゴーと凄まじい風の音で目が覚めました。発達した低気圧が北海道の上空を通過しました。低気圧に向かって風が吹き込んだのです。

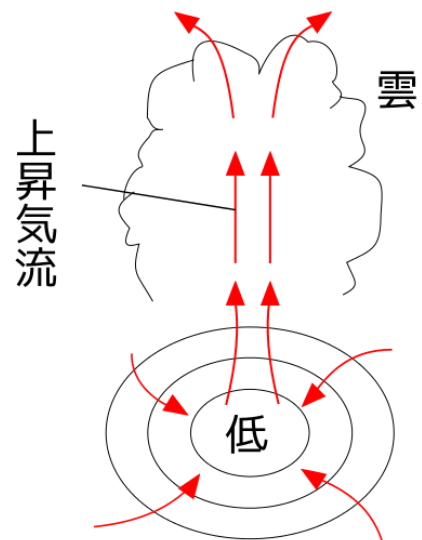
<こんなに風が吹き込んで、低気圧は空気で満杯にならないかな。大丈夫かな。>

<大丈夫です。低気圧では絶えず上昇気流が発生しています>

地球の自転のせいで北半球では、時計の反対回り（左回り）で風が低気圧に吹き込みます。そして、吹き込んだ風（空気）は、上昇気流となって上空に吹き上がっていきます。

<上空にいくと空気はどのようになるのかな>

- ◆気圧の低い上空にいきますから、空気は膨らみ(膨張)します。そして、軽くなります。
 - ◆膨らむと空気の温度が下がります。それに、上空にいくほど寒いですから、いっそう温度が下がります。
 - ◆空気の温度が下がると、その中に含んでいられた水蒸気の量が減ります。水蒸気の量が余ってきます。
 - ◆余った水蒸気は、細かな水滴となって現れてきます。雲の発生です。
 - ◆ですから、低気圧周辺は雲が発生したり、雨が降ったり、風が強くなったりと、天気が不安定になります。
- (宝鐸と低気圧の画像はオフィスのオンライン画像)



* 観察会等のご案内

北広島レクの森観察会	6月19日(日) 10:00~12:30	北広島レクの森駐車場集合
オオハongoソウ防除	6月30日(木) 10:00~12:30	自然ふれあい交流館集合・解散
藻岩山登山観察会	7月8日(金) 10:00~13:30	慈啓会病院前登山口駐車場集合